

2026 Photo Exhibition at Midorigaoka Art Museum in Nara, Japan

と芸術家の *Monochrome*

Photo by Yoshimasa Kubo

緑ヶ丘美術館が8年にわたって撮影してきた、芸術家のポートレート

Ryuichi Kakurezaki Yoshiaki Yamada Kazu Yoneda Buzan Fukushima Isokichi Asakura III
Masahiko Ichino Risetsu Nakai Yasushi Okada Keiji Kishimoto Yukika Shibata Tatsuji Yamanaka
Hisao Iida Shohei Iida Aya Honda Satoshi Yamamoto Masuko Ogino Tomi Miyama
Yasuhiro Itoi Bunshichi Kaihatsu II Kuniharu Higuchi Kazunori Takegoshi Masahiko Imanishi
Koji Kamada Takuya Kanamoto Kazu Yamada Naoko Yasuda Norio Kamiya Masahiro Maeda
Kinsa Kawabata VI Marina Furuya Haruhiko Niikura Kazuhiro Matsukawa Nozomu Shinohara
Yousai Inoue Eiichi Shibuya Tomoko Takahashi Takao Tahara

2026.3.8_{sun} - 4.12_{sun}

[開館日] 水・木・土・日曜日 11:00~16:00(入館は15:30まで) [休館日] 月・火・金曜日
[会場] 緑ヶ丘美術館・別館 → 〒630-0262 奈良県生駒市緑ヶ丘1426-38 [入場無料]
[URL] <http://mam-museum.com> <お問い合わせはFAXで:FAX 0743-85-7879>



Midorigaoka Art Museum
緑ヶ丘美術館・別館

Iと芸術家のMonochrome

Photo by Yoshimasa Kubo



フォトグラファー久保佳正氏が、緑ヶ丘美術館で開催した個展に際して撮影した37名の芸術家たち。人として、表現者としての理想や矜持、葛藤などを抱える彼らの姿を、モノクロームのポートレートで敬愛の念を込めて表現している。タイトルの「I」とは撮影者である久保佳正氏その人であり、共に多くの芸術家たちと向き合ってきた緑ヶ丘美術館であり、展覧会会場で写真を見る一人ひとりであり、それら全てでもある。

敢えて写真をモノクロームにしたのは、色彩という視覚情報を削ぎ落とすことで、芸術家たちの素顔や人柄、積み上げてきた時間を浮か上がらせることができるからだ。ただし、そのポートレートから何を読み取るかは、見る人に託される。ぜひ自由な視点で、そこに写る芸術家たちの息づかいや人となりを感じ取っていただきたい。

【展示作家写真】 隠崎隆一/山田義明/米田和/福島武山/三代 浅蔵五十吉/市野雅彦/中井理節/岡田泰/岸本圭司/柴田有希佳/山中辰次/飯田尚央/飯田将平/本多亜弥/山本哲/荻野萬壽子/美山富/糸井康博/二代 開発文七/樋口邦春/武腰一憲/今西公彦/鎌田幸二/金本卓也/山田和/安田直子/神谷紀雄/前田正博/六代 川端近左/古屋麻里奈/新倉晴比古/松川和弘/篠原希/井上揚彩/渋谷英一/高橋朋子/田原崇雄

別館 同時開催 Yoshimasa Kubo 「Phenomenon」出版記念展

広告写真を撮り始めて20年以上になる。その間、写真家として“作品”を発表することがなかった私が、写真集の出版と、記念個展を開かせていただくことになった。きっかけはコロナ禍。思いがけず、自分自身を見つめ直す時間ができたことが大きかった。写真展のテーマである「Phenomenon」(フェノメノン)とは、ラテン語や古代ギリシャ語を語源とする言葉で、「不思議なできごと」や「奇妙なもの」という意味をもつ。明確な意味や理由は分からないが、子どもの頃から、そういった言葉で言い表せない「Phenomenon」に強く惹かれていたように思う。

コロナ禍に撮影した作品の多くは、どこか孤独感や寂しさ、怖さ、陰鬱さを感じられるものが多い。当時の自分の心情が大いに影響していたのだろう。コロナ禍が明けた今も個人としての作品撮りは続けているが、やはりあの時とは違う写真になっていると感じる。「今、何を感じているか」によって、どのような「Phenomenon」が撮影できるのか。自分自身も楽しみである。

久保佳正

